

# CCCカレンダー 2017下半年期

2017年度下半期の主なボランティア活動とCCCのイベントを紹介します。  
 詳細は月2回発行の「ボランティア情報」をご確認ください！※予定は変更されることがあります。

10月	千種区民まつり	12月	NAGOYA おもいやり Santa Walk
	名古屋シティハンディマラソン		児童館クリスマス会
	ナマステインディア	1月	おばたの森遊び「冬の森遊び」
	NAGOYA UNDOUKAI		極楽苑外出支援サポート(初詣)
	コラボメッセ	2月	モリコロ雪まつり
	ゑびすまつり		東谷山フルーツパーク バレンタインチョコ教室講座サポート
	ワールド・コラボ・フェスタ	3月	千種児童館公園であそぼう in 大和公園
	国際子ども学校運動会		マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2017
	おばたの森遊び「秋の森遊び」		チャレンジファンド2017 最終報告会
	AQUA SOCIAL FES!! 「藤前干潟をきれいにしよう！」		
中日サバイバルキャンプ			
11月	デンソー クリーンウォークかりや		
	中日森友隊森林整備		
	はじめよう！つづけよう！スポーツ・ライフ		
	千種児童館公園であそぼう in 内山公園		
	東谷山フルーツパークジャム作り講座サポート		



## 編集後記

少しリニューアルしましたコラボ通信48号、いかがでしたか？ご意見、ご感想お待ちしております。  
 ここでは紹介しきれない活動情報を、CCC laboにて紹介しています。  
 下記QRコードもしくはキーワード検索でアクセスできますのでぜひご覧ください。(CCCスタッフ・今井)

### 学生編集チーム

#### ○学生スタッフ

古川 亮 加藤紗奈美 加藤沙也加  
 鈴木 恵介 長崎 里菜 和田 清花  
 石黒 友理 鈴木 紗英 森野 詩穂  
 伊藤奈央人 桑山千香子 小林 知世

#### ○写真撮影

後藤 梓(メディアプロデュース学科4年)  
 宇佐美 舞(福祉貢献学科3年)  
 倉野 愛弓(福祉貢献学科3年)  
 細田 恭那(教育学科3年)  
 磯原 良介(交流文化学科1年)  
 立松 直也(医療貢献学科1年)

発行：愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター

#### ●長久手キャンパス(11号棟1階)

〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9 (0561)62-4111(代)

#### ●星が丘キャンパス(5号館1階)

〒464-8671 名古屋市千種区桜が丘23 (052)781-1151(代)

Eメール asccc@asu.aasa.ac.jp

HP <http://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/index.html>

利用時間 平日9:00～18:30(授業日以外 9:00～17:00)



←QRコードまたは  で検索！

# コラボ通信 vol.48



【写真】  
 「ソニーの森活動」への参加  
 (主催:CCC学生団体「エコのつぼみ」)  
 撮影:磯原良介(交流文化学科1年)



# おしえて先輩

学生時代にボランティアや社会貢献活動、地域に飛び出して動いた経験って、卒業してから本当に役に立ってるの？ そんな素朴な疑問を先輩にぶつける、卒業生インタビュー。

今回インタビューに協力してくれたのは、福祉貢献学部卒の磯貝祐太さんです。

## プロフィール

磯貝祐太(いそがいゆうた)  
福祉貢献学部2010年卒  
社会福祉法人勤務。

第5回目のインタビューに協力してくれたのは、福祉貢献学部卒業の磯貝祐太さんです。磯貝さんは、在学中大学祭実行委員会や軽音楽部に所属していました。現在、社会福祉法人ひまわり福祉会「杜の家」に勤務しています。「杜の家」には施設で行われるお祭りのボランティアなどで現役学生もお世話になっています。

前回に引き続き、今回も長久手 CCC にてインタビューを実施。また、今回から CCC 学生スタッフがインタビューアーを務めました。学生時代を振り返ってもらいながら、現在従事している福祉の仕事についてお話を聞かせていただきました。



Q なぜ、今の職場で働こうと思ったのですか？

A 福祉貢献学部で、社会福祉関係の資格を取得し、福祉関係で働きたいと思うようになりまして。最終的には、障がいを持っている人たちがサービスを受けられるように、当事者の気持ちに寄り添い、コーディネートをする「相談職」を目指しています。そのためにも、現場を経験した方がよいと思ったので、今の職場で勤務することになりました。

Q 障がいのある人と関わる中で、大事にしていることは何ですか？

A 本人が言いたいと思ってることを汲み取ることでいいかなと思います。何を言いたいのか、何をしたいかということ汲み取って、支援に繋がらなければなりません。ですが、本人ができることはやってもらいたいと思っ

ているので、そういったアプローチはします。利用者さんの中でも、できないからやってくれというスタンスの人もいますが、気持ちよく汲み取りながらも、こうやってらできるんじゃないかと提案したりしています。

Q 大学祭実行委員の活動でどんなことをしていましたか？

A 当時、地域の多くのみなさんに大学祭に来ていただくという想いから、自治会のみなさんと定期的に地域清掃を行っていました。清掃を通じて、地域の方々から色々なお話を聞くことができたので、星ヶ丘の歴史を知る機会にもなりました。地域の方々と一緒にボランティアできる楽しさも感じるようになりました。

この時の活動が、現在の仕事でボランティアさんを受け入れる際に、ボランティアさんに楽しんで活動してもらえるような声掛けにつながっていると思います。

Q 施設のお祭りなどのボランティアを受け入れる側になって、ボランティアに求めていることは何ですか？

A 「アグレッシブさ」ですね。与えられないと動けない子も多いので、受け入れる側としては動けるようにしてあげたいと思っていますが、そういう子ももっとアグレッシブになってもいいと思います。勝手な判断では危険が生まれる可能性があるのですが、わからないことは職員に聞いてもらって、色々なことを体験し、世界を広げてほしいなと思います。

Q 今の職場での利用者さんとのエピソードを教えてください。

A 冗談を言ったりとかして楽しく過ごしています。ここで働き始めてから性格の多様さを知り、受け入れることができるようになりました。その上で、それぞれの利用者さんとの関わり方を考えています。もちろん利用者さんとぶつかることもあります。こちらとしては

できることはできるように頑張ってほしいと思いますが、利用者さんからしたら「なぜできないことをやらせるの」という答えが返ってくることもある。介護の基本は、「できることはやってみよう」ですが、利用者さんの考えも尊重したい。日々の介護の中で、少しずつ考え方が変わってきているのがわかります。

Q 最後に学生たちに向けてメッセージをお願いします。

A 学生時代は何でも挑戦できます。時間はすくありませんよね。アルバイトだけではなく、興味のあることにどんどん挑戦してほしいです。仕事とか今後の人生に活かせるものについて、まずは「歩目」をいっぱい見つける。その中でもおもしろい、何これ、ってときめいたら、とりあえず一歩目を踏み出してみよう。何気なく学生時代を過ごすのはもったいないです。学生時代、自分はこのはがんばって来た！と力強く言えるものをぜひ残してください。

## 【杜の家】

名古屋市名東区にある身体に重い障がいを抱えた人々が生活している施設です。利用者さん、職員みな地域と共生しながら過ごしていくことを大切にしています。



聞き手 / 長崎里菜  
教育学科3年

インタビューすることに緊張していましたが、磯貝さんのおかげで終始和やかな雰囲気でお話をすることができました。インタビューの中で、「一歩目をいっぱい見つける」「アグレッシブにいこう!」という言葉が印象に残っています。私も自分の興味のあることにはどんどん挑戦し、学生である今しかできないことを、後悔することのないよう行動に移していきたいと思っています。

まちづくり



学生団体「りんく2」  
鬼まんじゅうをつくらう！

ボランティア参加者の声

初めてのボランティアでした。おばあちゃんとたくさんお話をすることができました。戦争のことや当時の時代背景など、貴重なお話を聞くことができてよかったです。



佐久島活性化プロジェクト



奥三河山間地域の魅力発見☆設楽町

子ども



ドルフィンズプロジェクト  
～子どもたちとバスケット観戦をしよう～

ボランティア参加者の声

子どもたちも初めて会う人とはすぐに慣れそうになかったのですが、私たちが楽しい雰囲気ですぐに緊張が解けていくのがわかりました。



おばあさんの森遊び  
「夏の森遊び」



学生団体  
ASU element project  
「えいごであそび隊」

多くの学生がCCCを通して活動しています。  
2017年度上半期の活動の一部を紹介します。

福祉



スペシャルオリンピックス  
「障がい者の方々とスポーツをしよう！」

ボランティア参加者の声

知的障がいを持っている人が一生懸命に取り組んでいる姿を見て、自分たちも夢中になれました。「人」が「人」の心に語りかける力の強さを知りました。



ぼらマッチ！なごや  
「障がい者さんとCaféを  
Openしよう！」



学生団体「チームわんわん」  
企画 介助犬デモンストレーション

震災支援



学生団体「くまえる」  
熊本のみなさんを応援しよう！



学生団体「ういるく」  
避難者支援キャンプ



2017 photo station

国際交流・協力



外航クルーズ船外国人乗客対応

ボランティア参加者の声

自分の英語力の不足さを実感でき、よりやる気が出てきました。英語を理解してくれる人も多くいて、たくさん「ありがとう」と言ってもらえて嬉しかったです。

香港学生との交流会

香港学生と交流会を行いました。学生団体のワークショップや活動紹介、マスゲームやウクレレ演奏などたくさんのプログラムを通じて交流ができました！



学生団体「アミーゴ」  
子ども応援団



環境



AQUA SOCIAL FES!!  
「佐久島の海を守ろう！」

ボランティア参加者の声

なぜ島の清掃を行うのか現状を知った上で活動できたため、目的意識を持って取り組むことができた。今後参加するボランティアでも大切にしていきたいです。



学生団体  
「こめ☆こめくらぶ」  
田植え活動



学生団体「エネAS」  
環境学習イベント

CCC 開設科目



企画立案の基礎

履修生の声

学生団体に所属しているので、この講義は役に立つことが多く、履修してよかったです。



キズナプロジェクトA

履修生の声

地域の問題を自分ごとに捉えることは、地域のことを考えることだけではなく、自分について知ることにもつながっていると感じました。

イベント



チャレンジファンド2017公開コンペ

今年度は11団体が採択されました！今後の活動に期待！



市郷高校インターンシップ

市郷高校からCCCにインターンシップに来てくれました☆学生団体と関わりながら色々お手伝いをしていただきました。



長久手市4大学連携事業「学生ワーキング」

長久手市4大学連携事業ワーキング第2回目は長久手CCCにて行われました。長久手市長やNPO法人楽歩の大原さんからお話を聞き、みんなで長久手市のまちづくりについて考えました。

# 学生にインタビュー あなたにとってCCCとは？

学生スタッフがCCCを通して活動している学生にインタビューしました！  
 今回のお題は、「あなたにとってCCCとは？」。学生それぞれの想いを聞くことができました。

語り合うには  
 はずかしい普段聞けない想  
 いが聞けました。僕にとって  
 は“家”です。(古川くん)

インタビューを通してCCC  
 は学生に愛されている場所  
 だと感じました♡  
 (森野さん)

## 学生団体 Pick Up!

今回表紙を飾ったのは学生団体「エコのつぼみ」。  
 美浜町で竹林整備を行っています。竹林整備で切った竹を竹炭に変え、地域のイベントやお祭りにて消臭ポットを作るワークショップを出店しています。今年はソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社幸田サイトにあるソニーの森でも活動することになりました。社員の方々と一緒に竹林整備を行い、環境保全について学びながら竹の活用方法を考えています。



CCC運営委員の先生に聞く「学生へのイチオシ！」  
 第5回は福祉貢献学部の黒川文字先生から、  
 学生みなさんに伝えたい一冊をご紹介します。



## CCC イチオシ!

ちょうど、この「CCC イチオシ！」というコーナーの依頼を受けたころ、私が大学時代に影響を受けた本の一つ『生きかた上手』の著書でも知られる医師の日野原重明先生が生涯を終えられたとの報道を耳にしました。今でこそ“若い”に関係する高齢者福祉や地域福祉を研究分野にしていますが、当時の私はまだこうした意識もなく、何気なく手に取った一冊でした。何よりも著者が90歳の現役の医師であることに大きな衝撃を受けたことを記憶しています。この機会に改めて読み返してみると、次の言葉がありました。



生きかた上手  
 日野原重明 著  
 ユーリーグ 2001年

「熱い思いやほのぼのとした善意だけでは、残念ながらボランティアはつとまりません。相手の心を察する感性、状況を読み取る洞察力、そして果敢な行動力が求められます。」

聖路加国際病院の病院ボランティアを例にとりながら、ボランティアは提供する技術においてプロでなければならないこと、ボランティアに要求されるものがいつも足りない人手を補うような雑用ばかりではボランティアのすそ野が広がらないこと、ボランティアを募集する側にもボランティア精神の理解が必要であること、いきいきとした自分を発見するにはボランティアの体験が絶好であることなどが説かれています。

皆さんも出会った本や言葉から、たくさんの気づきを得ていることと思います。これまで読んだ本をまた読み返してみると、今の自分に新しい発見があったりするのではないでしょうか。「生きかた上手」を十数年ぶりに読み返した私は、日々の生活に追われるだけの自分になっていることに気づきました。私は相手の心を察することができているだろうか、状況を読み取ることはできているだろうか、行動力を持ち合わせているだろうか、ボランティアについてのお話から、生きる上で大切なことを改めて気づかされました。私にできることは多くはないかもしれないけれど、小さなことでも意識して、ほんの少しでも他者のために役立つことがあったら幸せだな、とふと感じています。